

東京 - 横浜間六郷川鉄橋橋脚・橋台詳細図

開港のひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

- 編集・発行／横浜市総務局横浜開港資料館
- 横浜市中区日本大通3丁目231企画室内
- 電話 045(201)2100
- 発行日／昭和58年2月1日
- 印刷／神奈川新聞社

明治八年作成

「六郷川鉄橋架替工事設計図」

開港資料館では、ソフトとハードの両面から、日本の開国、横浜の開港に関する調査研究・資料収集を行い、市民の方々に公開しています。今回は、明治八年に建築師長雇イギリス人R.V.ボイルが設計した六郷川鉄橋架替工事設計図面と関係資料をご紹介します。

ボイルと設計図

この図面は、明治五年（一八七二）に架け替えるためにボイルが設計したもので、配置図・立面・平面・断面図、橋脚・橋台詳細図の三枚があります。

ボイルは、鉄道創業の建設計画に多大な貢献をした初代建築師長E.モレルの後任として、明治五年から同十年（一八七二～一八七七）まで在職し、この間、六郷川鉄橋架替工事を指導したり、信越線、尾張線などを調査して基礎計画を定めたとされています。

富國強兵、殖産興業とともに西洋文化の導入を図ろうとする明治政府は、様々な分野で西洋人を雇って指導に当たらせました（いわゆる「御雇外国人」）。建築師長とは、職制上鉄道業務全般を総括する鉄道差配役の下で技術部門の最高責任者です。

図面をみると六連のトラス桁があり、そのほか、今回入手したボイル

明治八年（一八七二）イギリスで製作された東日本最初の鉄橋です。架替工事は明治十一年十一月完成。東海道線の鉄橋として使用されてきましたが、明治四十五年新橋・横浜間の改良工事でこの桁は撤去され、大正四年に御殿場線の

第二酒匂川橋梁に移設されました。これも、昭和四十年の取替工事で撤去された後、その一連がわが国で現存する最古のトラス桁として鉄道記念物に指定され、現在中央鉄道学園三島分教所に保存されています。

(5)明治十二年二月十日付「兵庫ニユース」紙（神戸居留地で発行された新聞）。時刻表、料金表及び神戸・京都間鉄道開通の記事が掲載されています。

(6)井上勝からボイル宛書簡。ボイルの日本政府に対する貢献に対しても二千円を送ったという内容。明治十二年二月二十一日付。

(7)その他鉄道関係書簡・文書類。

のコレクションには次のようないります。

- (1)ボイルと日本政府間で取り交わされた契約書。当時工部卿だった伊藤博文の署名入り。明治九年（一八七〇）六月二十九日付。
- (2)ボイルの五年間雇用の条件を記した協定書。明治九年八月九日付。
- (3)伊藤博文から鉄道差配役カーティギル宛書簡。ボイルの鉄道拡張提案に対する回答。明治九年十二月二十九日付。



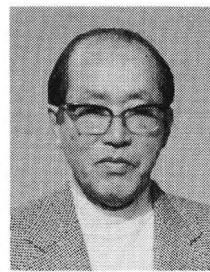
伊藤博文の署名入り契約書

内田　横浜開港とともにあって開港場の近在の人が出稼ぎ奉公にてた
という文書が最近発見されたこと
や、蘭方医に関する資料群が戸塚
でみつかったり、このほか横浜に
領地をもっていた旗本の所蔵文書
が比較的広範囲に散在しているこ
となどがあげられます。また横浜
は海岸線に恵まれていたので、漁
業関係文書もあります。

ていたのが、開港後は、横浜から舟で神奈川へ出て江戸の領主のところへ行くという経路をたどってい、る、といふに地元のこまかい資料によつて以上のよつた変化を知ることができます。

今回に於ける古文書の調査や資料館で実施している古文書解説会の講師をお願いしている内田四方藏さんをお迎えして、古文書の保存と公開、資料館の役割等についてお話しを伺いました。

内田四方藏氏



館長対談

とは、これまで大きっぽにはいわ
れてきましたが、具体的な史実で
明らかにすることは割合になされ
てこなかつたと思つんですね。

内田　たとえば、緑区や港北区辺りは江戸との結びつきが案外強いんです。領主が江戸におりますから、その間の交通はひんぱんだつ

たんですね。それがしたいに横浜に
移ってくるけれど、この間の変
化はやはり地域のこまかい資料
よって、徐々に変化する動向を把

握るの、」)」がでます。もうひとつの例でいえば、本牧の名主の日記を見てみると、開港前は本牧から保土ヶ谷へ出て東海道を利用し

ていたのが、開港後は、横浜から舟で神奈川へ出て江戸の領主のところへ行くという経路をたどっている、というふうに地元のこまか

い資料によって以上のよきな変化を知ることができます。

史などを参考にし、さらに原文書を使って地域の変化の足どりを明らかにしていくという仕事が必要

内田 開港後、近在では木綿や菜種、お茶の生産が盛んになるけれども、一定地域の動向だけではわからない場合があります。そこでもっと広い面の動向を把握したいと思うのですが、その意味で、資料館が幅広く資料の収集・保存と公開をもっと積極的にしてくれれば、これまで片々たる事実しかなかったことが、もっと生きてくるのではないかと思うんです。

館長 これまで資料を大切に保存されてきた所蔵者の方々のご努力は並大低ではないかたと思うんでですが、調査の体験を通じて内田さんはこうお感じになりますか。

内田 一例ですが、戸塚の門倉さんのお宅では毎年六千点に近い文書・資料を虫干しにされ、その保存に努力されてきましたといいます。そういうご努力に対し敬意を表しながら、よく残していくだいたいと心がけをもって拝見させてもらっています。

館長 さらに、この資料を整理し目録にすることとは、大変な労力です。こうした努力のおかげで、地域の歴史は明らかになるのです。

内田 目録作りにあたっては、ご自分の興味あるものをつまみ食いするという作り方ではなく、全ての文書を目録化するという態度が必要です。地域の歴史にかかわる

になつてくるのではないかと思いま

二年続けて渡米し、米議会図書館や国立公文書館、ニューヨーク市立図書館、ピーボディ博物館などで何人の専門家と意見を交わし、横浜開港資料館への助言をいろいろ受けました。

いろんな来館者の興味にこしたえ
ています。

第三は友の会です。これはニューヨーク・フィルの運営が好個のお手本になるでしょう。年

献身的な助言をしてくれる」と
です。この積極さには頭が下が
る思いでした。

【広い興味に訴える】

かという問題があります。あなたの資料館が横浜開港に関する資料を全部蒐集しようとするのは結構です。だが極度に専門化した資料館というのは貴重はあるが、専門的になればなるほど来館者は少なくなる。もう少し展示を多様化していろんな

卷之三

人をひきつける努力をしたらどうか」というアドバイスは傾聴に値するものでした。ビーボディ博物館も、モース・コレクションのほか海事博物館や民俗学資料館の性格を持ち、かと思うと「根付け展をやつたりして、いろんな来館者の興味にこたえています。

【経済的自立への道】

第三は友の会です。これは二ユーヨーク・フィルの運営が好個のお手本になるでしょう。年に十ドルまでの支援者には月報を送る。五十ドルまでは公演中カクテルを二杯まで無料で。百ドルまではカクテルと切符二杯とりハーサルの見学。二百ドルまではさらにブリマ・ドンナとの茶話会。一万ドル以上になると全公演に招待…と一段階ほどに分かれ、個人と法人で恩典も違います。このようにして経済的自立を達成しているのです。とにかく、あちらの施設の意欲的なところには、本当に感心させられました。私たちの資料館にも積極性を望みます。

人はこれを基本的態度にして欲しいと思いますし、保存に従事される方も守って欲しいと思います。館長 最後になりますけれども、今後、資料館はこうあって欲しいという提言をいたたけたらと思います。

内田 ひとつは、資料館は文書・資料の所在調査と収集・保存を絶えずやるようにしてもらいたいと思うんです。所在調査を最近やつていよいよですが、ほつぼつにたくさんの方文書がありますし、現を取り組まなければ機会を失つて

面が多いと思うんです。ですから、今後、資料館は近代の地元の文書を積極的に収集・保存していただきたいと思います。さらに、これらの調査結果を、市民に、展示等を通じ還元してもらいたいと思うんです。というのは、自分はたま

輸出の中心品目である生糸や蚕種の生産地帯にも大きな衝撃を与えた。生産と流通の増大とともに生産社会の変化は、そこに住む人の生活と意識にも多大な影響をもたらしました。生糸・蚕種などの生産に力を入れる者、仲買商となつて経営を擴大する者、仲買商となつて経営を擴

帶の一つである上州（群馬県）をとりあげ、同地に生まれ横浜と上ました。生産と流通の増大とともに生産社会の変化は、そこに住む人の生活と意識にも多大な影響をもたらしました。（吉田）幸兵衛および田島弥平に焦点をあてます。吉村屋幸兵衛は横浜開港直後から横浜に出向き、横浜を代表する有力な生糸専業商人として成長しました。田島弥平は蚕種

たま何かの事情で横浜に住みついだけれども、その子供たちにとっては横浜が故郷となるんです。こうした人びとが自分の住んでいるこのように毎日毎日が少しづつ変わつて行くという姿は、やはり近代の地元の文書でないとわからない

えらぶことが資料館の重要な役目になっていくと考えます。

館長 貴重なご提言ありがとうございます。今後とも協力をお願いするとともに、本日の対談、心からお詫び申しあげます。（去る一月十二日の対談です）

三 情報

- (1) 「ベリー来航関係資料図録」開館記念特別展「ベリー提督」展出陳された全展示品を収録(B5判57頁。七百円)
- (2) 「ブルーム・コレクション書籍目録」第一巻 ポール・C・ブルーム氏から譲渡された書籍約六千点のうち、約千五百点を紹介(B5判116頁。六百円)
- (3) 普及誌「たまくす」創刊号 横浜開港資料館総合案内として常設展示と館の紹介を中心にして編集(B5判オールカラー84頁。五百円)
- (4) 「江戸時代の横浜」開港以前の横浜の人々と生活を、地方文書を通して解説と本文により浮かび上がらせる(B5判140頁。千五百円)
- (5) 昭和初年の中南米視察記録及び横浜商業界の動向に関する資料(五十七年八月～五十八年一月)
- (6) 市電レール(明治四十一年製作)(市交通局)



横浜と上州を結ぶ人びと――

「生糸貿易の幕あけ」展(2/2 ~ 4/24)

本年一月三十日まで開催した「アメリカ総領事ハリス」展では、日米修好通商条約（一八五八）の締結に尽力したハリスの歴史的役割・人物像を紹介しました。それに今回の企画展示は、通商条約により開港した横浜で、はなはなしく展開した生糸貿易をとりあげます。

安政六年（一八五九）の横浜開港による生糸貿易の幕あけは、横浜を貿易港として発展させる大きな要因となつたことしまづ、

内田 ひとつの歴史的役割を紹介しました。それには、通商条約によって開港した横浜で、はなはなしく展開した生糸貿易をとりあげます。

大する者、さらに横浜へ出て商人となる者が相次ぎました。彼らは横浜と強いつながりをもつて貿易を担つていくのみならず、横浜の「文明開化」に直接ふれる機会に大きな転機をむかえる彼らの足跡をたどること、これが展示の目的となります。この展示にあわせて記念講座の開催も予定しています。

当館講堂で一般公開すとともに、地下閲覧室のビデオディスクでも自由に鑑賞ができるようになります。

開港以前の横浜の人々と生活を、地方文書を通して解説と本文により浮かび上がらせる(B5判140頁。千五百円)

4 西門拡幅工事が竣工

開港広場の建設に伴つて施工していた開港資料館の西門（日本大通側）拡幅工事が十一月十五日竣工し、催物案内板も同時に設置されました。これにより正門、東門、西門の三カ所から入場できるようになりました。

2 寄贈・寄託資料(五十七年八月～五十八年一月)

(1) 昭和初年の中南米視察記録及び横浜商業界の動向に関する資料等(松村千賀雄氏)

(2) 岩瀬忠震レリーフ石(こう原型)

